

五	六	二
三	三	三
五	八	一
六	七	七
成	豐	天
獻	山	安
一	一	〇
四	〇	五
五	五	五
五	九	一
三	七	七
寧	富	水
浦	谷	源
嶋	谷	深
一	一	一
四	三	二
九	六	二
七	七	七
三	三	一
九	〇	六

を吸つた時、突然たる威光が五體に注
ぐると覺れたのである。余り薄志と笑ひ
て還ふ屏風の如き四圍の景観、冬國に
萬戸乃毫に對し三千年の古都の歴史、前
想を胸中繰返しつつある奥底にはいふ
からざる一種、悲感が水の如く身を襲ひ
るを覺ゆるのである。余り薄志と笑ひ
金八は心経實と致り玉ふな、健康
有り願く希望を有し、仮令へば油の如き
一片帆に風を拵みて快走した海客が一
瞬の間に直ちに大暴風に示した様の場合に
の時差落せざるべき、應念の法、舊後の策
として一時復を失はざるべき、何ぞして
時差落せざるべき、應念の法、舊後の策
やがて氣も心も靜れて操の事に過ぬ
の心は宛も受けれ、已れ既に越つ能はざる
意の打撃を受けしは、其利那に於て
國家類稱の大壯舉も、貴國の如き好風景
畢竟馬牛の如しである。

又も京都に出てゝ流

餘國內務大臣趙秉世は致命を奉はり日本帝
國政府の推薦したる丸山重俊との間左圖
の條項を協約せり

第一條 丸山重俊は大韓帝國政府の警務事務專
任として該官なる意見を以て森田建案の責に
任ずる事

第二條 大韓帝國政府は警察に關する一切の
事務に參與し且つ警察に關する意見を出す
部大臣を経て議政府に提出すると得る事

第三條 丸山重俊の俸給は金四百百元とし
て毎月末日支拂する事

右俸給の外大韓帝國政府は相當の官舎を
山重俊に供給する事

但相當の官舎なきときは一月月官舎料
金八十元を支給する事

第四條 丸山重俊來任韓國及改歸程隨帶國
事は舟車料費内外金貳百圓を支給す
時は舟車料費内外金貳百圓を支給す

視察事務に依り大韓國內地に前往の時
舟車料費の外一日金貳拾八元を支給す

第五條 本契約の期限は豫定せず各一方
日本契約解除の必要を生ずる時は相互

捕虜の賭博

世良田は、斯んな事を考へて今通り返き、
馬を驅つて其馳逐既ハヒールブランデー
樽を運搬して居る處に追付うとするのど
自分の五目の美麗なる總騎兵ハ其指揮官を
大々たるのを考ゆると世良田は實に不倫
致す極である。

世良田は尙も斯んな事を考へて今通り返き
を叩いたものがあつた。他でもない前に云つ
た西班牙の老僧である。
「非常に困つてお出の様ですが、私
が好い工夫があります、私も南の方に行く
ものですから」

世良田は振り返つて自分の手と同じく此老
僧の肩にかけたが、未だ舊の意らない足を
地へ踏付けたので踏跟ハ機に老僧までも引
張倒さうとした。

で而し之には別に深い意味はないのだ。
世良田のこの様子を覚えてゐた老僧は稍々苦
み歎いた顔をしてゐたが程なく村を離れらるゝ
道伴としては尤も愉快なる老人である事が
解つた。

老僧は其由寺の生活の如何に神聖にして且
つ樂しさものであるかを話すので世良田は
之に戦争の經歷話をあて聞かせるのであつ
た、而し其はなしが餘り憐愍たう光景の段
になると老僧は座に附へる如く顔色も苦
痛の様があらはるゝものであるから、わゝ言
い過ぎだと世良田は後悔するのであつた。
あの樺ノ宗教家に對して極々普通の事柄を
話すのが紳士の禮である、而しさやもはな
しの調子に乗ると誰ととも謹慎の度を取り
はづすのであるけれど。

老僧の語る處に内れば彼は西班牙の北部か
ら來たのでエストルマヤユタ村に在る其年
老いたる母親を訪ねて行くのであつて、其

-69-

に非ずや、況んや現今世界の趨勢は轉た敎家をして此等の事業に従はしめんとするとは意あるや、見よ彼の物質的文明の極焉たる其面には敗徳汚行の惡徳を隨伴して誇らずや、おれ果して人文文明の花として誇らば、眞の人文開發は明暗の二面を有するを許さざるなり此等の惡徳非行を救済するは物質的文明の利器のよく用ゐるところにあらず。唯獨り精神的教化の之を降するのみ。

然るに某國現時の状態は物質的文明としては京釜鐵道の開通せしに止まり、未だ普及の域に達せず、精神的教育は尙以基督世の惡徳は固疾となり居也。佛教家たるもの苟くも人類幸福の増殖を以て已乃任とせば此際否保護國の狀態に於て哀愍の情を喚起せざるものあらんや宜しくわれが爲には千の方便、百の手段を講ぜざるべからざる也。予が韓國市政に對しての方法なるものは、實に人類の幸福を増進するにあつて存す。思ふに韓國の如き教育の普及せざる、衛生の勿論に附せられたる邦國に布敎の人任を擔ひて來れる佛教家は、右手に普通教育の傳播を執り、左手刀圭を握り醫藥を施し、疫癘彼くべからざる邊境を漸次打破して眞實の皇位を建立するの策を執らざる

慶尚道事情に關する
釜山領事館の調査(續)

第十 漁業

朝鮮海に本邦人が出漁を試みたるは今を距ると約七八十年前のことにて其先鋒としでは恐らくは大分山口兩縣下の磯漁夫ならんや又廣島愛媛薩摩縣下の漁夫等も遠海漁業を企て先對州近海に出で當時には朝鮮海に進出したるものにして其時遂に其船舶も漸く百艘内外を出ざりしが明治十六年日韓貿易規則締結せられて通漁公認せられ以て二十二年更に通漁條約の訂定を告ぐるまで本邦の船捕獲の爲運來するもの日多しを加へ其後毎年約數千隻漁夫二萬人を下ろす々其產獲萬噸以上二百萬圓の巨額を算するに至り一本釣の小組細法により捕鯊の如く大網線法に至る迄盡く之を海岸に移して恰も全然邦人獨占の漁場たるやの觀あり而して漁者の多くは且釜山に渡航し販地に於て左の如き諸漁具狀下附の手續を了し漁業免許證領下漁網

一漁船 船主姓名 船籍主姓名 外乘組何人 一長阿程 福河程 深何程 通漁規則に基き沿海三里以内に於て漁業相登度候間免許狀御下附相成度此段奉願也 明治四年同月何日 右船頭 阿某團 韓國釜山海關長責下

附海四年傳風魚目
朝鮮釜山海港海關長責下所て捕獲の限必とし各自其目的の漁場に向ふて漁せしが木蘭群島馬山等の開港と其數港とに伴ふて通過者も漸次漁場近づき漁權場に直行して其他に於て諸用を辦するもの亦に乏れず

釜山港近海漁業の一斑を示さば釜山港は一萬人以上の居留地と附近には韓人居る者甚く和又本邦人の最近距離の域にあるから以て通漁權の販路廣く又價值も他と比し廉價給に販賣し得らるゝのみならず日用品の供給にも便利なる等の理由を以て漁船の來往最も多くして周年定額を絶たず且つ常任の役所兼漁夫多數に萬工百艘乃至三百艘の漁船は常に釜山港を擁護して近海を巡遊す

陸軍省發給の海防券(海防券)は、既に免許引換額をなすへし其手續は前に免許證下附頭の證明を申請したる日本領事館に付し更に左方の手續を充てんとす日本領事館へ證明申請書並にこの證書を造成し居留地役所に提出納付し其他領事館手数料は最初免許證下附額の半額に比し半減額

一漁船 船主姓名 船籍主姓名 外乘組何人 右船頭 阿某團

幸な人となつた神戸にて汽船に乗遊り下
 にては尋ねし友に得會はす、兎にも角に
 して釜山に着いたのは仁川の海賊があつ
 といふ聲であつた、釜山は僕が故郷の
 船、五六島を入るや、聲轟く龍頭山は
 に双眸に落ちて来る、時つ絶る島、碧深
 港の磯、沈石に懐しき心地もする此地に
 知已朋友二三にして止らぬので凝結して
 の如き心にも、多少の希望を輝て上陸した
 も先づに訪れたのは美善公乃舟であつた
 賢君は年來の知己其黒髮會時代よりして
 撲、圍碁の好敵手であつたのである、實
 僕が第一の故郷たに朝鮮へ歸以するの傍
 黒髮會の仕事としての或事と美術君の許
 願するべき使命を帯びて居たのだがされ
 於に或事情の爲めに中止の已むなきに至
 たのであつた
 釜山での暫しの生活は聊か病氣より來れる
 の精神上の苦痛を和けるとが出来た、優
 しい友人等の同情、美なる山水の慰藉は
 望み不平憤懣に對する多少の緩和劑たるを
 地にあらざれば、僕は又懐き釜山の地
 見捨て濟物並上の人となつた
 物浦に於ける數月の生活は果して幸福の

契約を解除するを得る事
 光武九年三月二日
 内務大臣 趙秉式
 九山重俊

新體詩
 玄海 亦木 琢斎
 新らしき冠、かひり
 征途に上る健兒を乗せし
 船は通る、野門の瀬戸
 春帆樓、臺は高し
 門司の街、居氣樓のごと
 砲台は峰につきて
 碇泊の船がすしつて
 海門を航し出づれば
 變り行く、海の潮色
 紺青の浪、いや高く
 底知れぬ、松風萬尺
 玄界の瀾、はざれか
 弘安の昔、しのびて
 船橋に行立すれば
 入鹿數百、怒濤を轟つて
 順り行く水、雷のごと
 上弦の月、波より出で
 花の花、朔拍色なし

「それや御供致します」とも。
流暢なる佛蘭西語で老僧は答へた。
老僧「別に何にも貰はうと云ふ爲でなくつて、私は困つてゐる人を助けるのが天職であると思つてゐるから、何處に行つても人から愛せらるゝですな」
老僧は世良田を伴ふて此村の或る農家の牛小屋に行つたが、おほには乗合馬車の壞れかゝつたのが一臺あつて驢馬が三頭、竝であつた。尤も此ん大小さい馬に乗つて行かうとは思ひも寄らぬが、三頭で此箱馬車を引かせるとは出来るのである。その太い脚の、不格好なのを見るのは郡倉の二百二十圓の特權用の乗馬をフォンテンブローの邸で見た時よりも嬉しいと世良田は思つた。そして十分時の後に其持主は驢馬を馬車に括り付けてゐる、而しながら余り進んで之を遣つてゐるのではない、それよ山賊の苦智路を恐るゝ事非常であるから。
世良田は少なからぬ金を拂ふ事を約し、老僧は未來の恐ろしい事を説聞かせて歸くにして此體病な敗者を手綱を握らせたのである、而し敗者は馬に一鞭を當てるさ直ぐに一人の親に逢ふ時の嬉しさをばなすのを聞く。世良田大佐は自分の國に在る者母の事を明らかに眼前に思ひ浮ぶるので自ら涙を催すのを禁を得ない。
老僧は土産はとて持ち行く小さな思ひみ大佐に示した、成る程行く處で人に愛せらるゝと云ふ老僧の言葉は之を見るも眞實であると思はれる、老僧は大佐の軍服を羽毛の美麗なのを貰たり、其軍帽の飾なる奇けて見て其華麗なのを愛するまき丸で小兒の機であつた、そして劍を引抜いて見るから大佐は幾十人と數知れぬ程之で斬つたのであるとはなして其幸紐の止りになつてゐる物は露國皇帝の副官であつた者の肩の皮で作つたのであるとはなして聞けた時に老僧は懷ひ上つて此恐ろしい劍を敷布圍ひ下で隠して了つた、見るのも恐ろしいと云つ

月八日
本町一丁目十八番行向
世昌洋行汽
船元取扱店
齊藤回漕

世昌洋行汽
船元取扱店
齋藤回漕

朝鮮日報

萬金物問屋
信州録
大工道具
金銀類
打刃物
類物金諸
店高村下

勉強廣告 國府洋服店
支那料理 東京そば 東庵
東京料理 會席仕出し
東京料理 會席仕出し

東京料理 會席仕出し
東京料理 會席仕出し
東京料理 會席仕出し

仕會席料理 春日
仕會席料理 春日
仕會席料理 春日

賣出期日は二月十日より二十八日まで
に號野五圓債券賣出し
割増金五百圓以下澤山○抽籤毎年三回

特約販賣廣告

吳服太物類

右は今般下店義製産地の特約を結ひ何品に
依らば特別大勉強を以て顧客諸氏の御注文に
小應し迅速御便宜を相計り可申候小付何卒
多少小抱御用仰付被下度偏に奉懇願候

吳服太物類
一手販賣係
吉崎支店
福嶋支店
森與三郎

藤正宗

清酒特約販賣廣告
吉崎支店
森與三郎

吳服太物類

御春着用最新柄
各種品類
田原口金山支店

漆器陶器日用家具
御小賣廉價販賣
新小説講談貸本有

唐津石炭 國安商店
電話一七一

健康無比
純良乳
迅速配達

蜂印葡萄酒

合齊藤商店
電話一四四

妙振出し
安質比林丸
和漢洋藥類

多少ニ不拘大勉強
米穀商 西原

東直入
たはさみの類
内山商店

丁寧親切
柳井旅館
電話二七六

獸醫
中尾祐作
電話四四四

寫眞攝影
平井寫眞館
電話二二六

開店廣告
石川勝治

今般當地ニ支店ヲ設
ケ鐵道貨物運送營業
開始仕候

入荷廣告
利尻上等昆布
北海黒大豆上品

金山港北濱町一丁目
小津金山支店

大坂毎日新聞
萬朝報

文明
朝日
大和

共生齒科醫院
電話一五五

赤組本部
赤組出張所

大坂毎日新聞
萬朝報

第一銀行
第拾七期營業報告

資本金
準備金

金銀
金貨

金貨
金貨

金貨
金貨

金貨
金貨

金貨
金貨

金貨
金貨

金貨
金貨